

NEWS LETTER

Vol.4
2021.12月

主要指標 (2021年10月速報値)

※請負は請負・委任の合計

[会員数(人)]	前年同月比較	[新入会員数(人)]	前年同月比較	[退会会員数(人)]	前年同月比較
合計 694,752	(▲10,263)	合計 58,075	(+3,990)	合計 61,742	(▲2,886)
男性 459,102	(▲ 8,115)	男性 35,697	(+2,242)	男性 38,774	(▲1,402)
女性 235,650	(▲ 2,148)	女性 22,378	(+1,748)	女性 22,968	(▲1,484)
[受注件数(件)]	前年同月比較	[就業延人員(人日)]	前年同月比較	[契約金額(千円)]	前年同月比較
合計 2,243,422	(+13,219)	合計 38,657,755	(+447,816)	合計 187,524,834	(+2,626,758)
請負 2,200,008	(+12,338)	請負 33,721,508	(+275,291)	請負 161,212,845	(+1,304,456)
派遣 43,414	(+ 881)	派遣 4,936,247	(+172,525)	派遣 26,311,990	(+1,322,302)

トピックス

総人口に占める65歳以上人口の割合は28.6%と過去最高

11月30日に「令和2年国勢調査 人口等基本集計結果」が公表されました。

令和2年10月1日現在の我が国の人口は1億2614万6千人。前回の平成27年国勢調査と比べると、人口は94万9千人の減少、率にして0.7%の減少となりました。人口を男女別にみると、男性が6135万人、女性が6479万7千人で、女性が男性より344万7千人多く、人口性比(注)は94.7となりました。

(注) 人口性比とは、女性100人に対する男性の数をいう。

総人口に占める65歳以上人口の割合は26.6%から28.6%に上昇

総人口を年齢3区分で見ると、15歳未満人口は1503万2千人、15～64歳人口は7508万8千人、65歳以上人口は3602万7千人となっています。

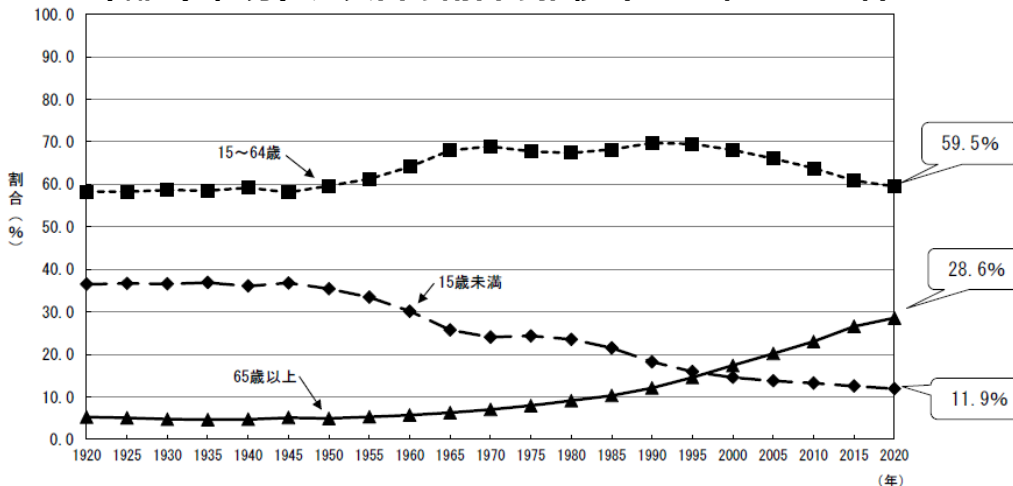
総人口に占める割合を平成27年と比べると、15歳未満人口は12.6%から11.9%に低下、15歳～64歳人口は60.9%から59.5%に低下、65歳以上人口は26.6%から28.6%に上昇し、過去最高となりました。(下図)

また、65歳以上人口のうち、65～74歳人口は1742万5千人。75歳以上人口は1860万2千人で、65歳～74歳人口を上回っています。(下表)

65歳以上人口	うち75歳以上	うち85歳以上
36,026,632 人	18,601,808 人	6,133,398 人

(出典) 令和2年国勢調査(総務省)

年齢(3区分)別人口の割合の推移(1920年～2020年)



注) 2015年及び2020年は不詳補充値により算出。2010年以前は分母から不詳を除いて算出

(出典) 令和2年国勢調査(総務省)

65歳以上人口の約5人に1人が一人暮らし

65歳以上人口のうち、単独世帯の人口は671万7千人となっています。

また、65歳以上人口に占める割合は19.0%となっており、65歳以上人口の約5人に1人が一人暮らしとなっています。

男女別にみると、男性が230万8千人、女性が440万9千人で、女性が男性の約2倍となっています。

また、65歳以上の男性のうち7人に1人、65歳以上の女性のうち5人に1人が一人暮らしとなっています。

特集

年齢階級別粗入会率を把握し、分析する

全シ協では、シルバー人材センター及びシルバー人材センター連合本部から報告いただいた事業実績を基に、さまざまな統計結果を公表していますが、その一つに、地域の高齢者の方々がどれくらいシルバー人材センターに入会していただいているかを表す指標として「粗入会率」があります。

<粗入会率の算定方法>

$$\text{粗入会率} = \frac{\text{シルバー人材センターの登録正会員数(3月31日現在)}}{\text{シルバー人材センター設置市区町村の60歳以上人口(3月31日現在)}} \times 100$$

粗入会率は減少傾向

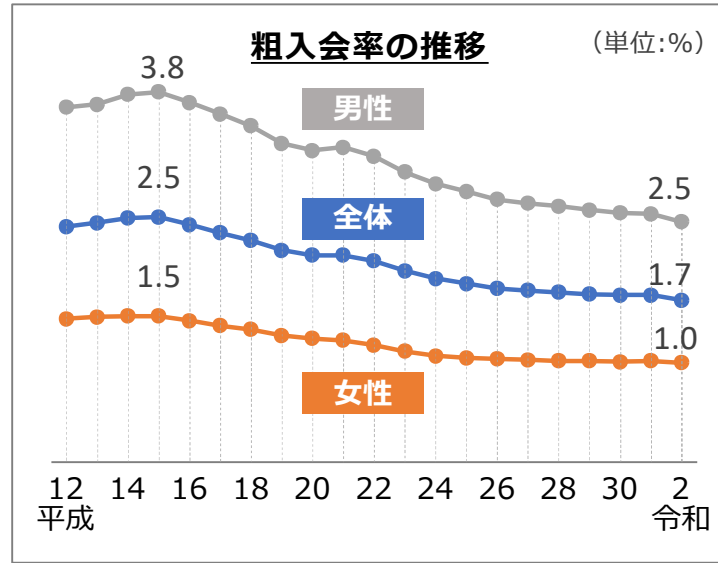
令和2年度の会員数は69万8419人（男性46万2179人、女性23万6240人）、センター設置市区町村の60歳以上人口は4237万9584人（男性1888万2355人、女性2349万7229人）で、粗入会率は1.7%（男性2.5%、女性1.0%）となっており、高齢者層は年々増加していますが、粗入会率は平成15年度をピークに減少傾向が続いています。（右図）

年齢階級別粗入会率の把握・分析

粗入会率が減少している理由の一つとして、希望者全員の65歳までの雇用確保措置や70歳までの就業確保措置（努力義務）など高齢者が企業で働き続ける環境が整えられてきたことにより、多くのセンターで60代の会員の獲得が難しくなっていますが、一方、70歳以上の新入会員や会員の退会抑制に取り組んでいるセンターも多くあります。

センターは、働く意欲と能力を持った地域の高齢者すべてに開かれたものであり、人生100年時代を迎え、元気なうちはいくつになっても働き続けることができる就業環境を整えること、また、就業することが困難になった会員の居場所としての機能を果たすことが、地域社会の中で求められているセンターの大事な役割です。

センターが果たしている役割を示すとともに、今後取り組むべき方向を示す指標として、現在の粗入会率に加え、各市区町村の「住民基本台帳人口」の年齢階級別人口を基に算出した「年齢階級別粗入会率」を把握し、分析することが重要です。



(参考) 年齢階級別粗入会率の試算

下表は、政令指定都市と東京23区の令和2年度の年齢階級別粗入会率を小数点第2位で試算したのですが、年齢階級の区分により大きな差が出ているのが分かります。（単位:%）

区分	全国	政令指定都市	東京23区	
粗入会率 (60歳以上)	1.65	1.18	1.87	
年齢階級別粗入会率	60-64歳	—	0.24	0.30
	65-69歳	—	1.17	1.38
	70-74歳	—	2.13	2.84
	75-79歳	—	1.97	3.52
	80歳以上	—	0.54	1.53

(住民基本台帳人口を基に算出)

全シ協では、令和2年国勢調査等に基づくセンターごとの「年齢階級別粗入会率」を情報提供する予定です

— シルボン又全国大会 IN TOKYO 2021が開催されます —

全シ協からのお知らせ

- 日時 令和4年1月19日（水）13:30から16:30
- 場所 コングレスクエア日本橋 3F（東京都中央区日本橋1-3-13）
- 内容 第一部「基調講演」 エッセイスト 岸本裕紀子 氏
第二部「女性活躍事例発表」 大野市SC（福井県）、富谷市SC（宮城県）、芦屋市SC（兵庫県）